3. 「科学する心を育てる」ための実践研究 西南女学院大学短期大学部附属シオン川幼稚園

本園の保育目標の中に"科学する心"を育てる内容が多く含まれている。科学する心とは自然に積極的に働 きかける幼児の姿であり、もう一つの側面は、身近な素材を使って生活や遊びに必要なものを創ったり、試し たりすることを"科学する心"ととらえている。

"科学する心"を育てることは、友だちと共に考え合い様々な活動をすることを通して、将来人や環境と関 わる際の適切な判断力を育てる土台となると考えている。

保育目標

保育するにあたり、下記のようにめざす子ども像を明 確にした。それは子ども達一人ひとりに「愛と信頼、 感謝と希望」に満ちた生活をおくらせ、幼児期にふさ わしい経験をすることで、幸福な人間としての基礎を 築くことを願っているからである。

- ↓ キリスト教保育にねざした愛と命の大切さを知る
- ✓ 友達と一緒に遊んだり活動したりすることを喜ぶ
- ✓ 知的な好奇心と感動する心を持ち、主体的に考え、 行動する

年齢別の目標

(3歳児の目標)

- ♪ 身近な人や自然との関わりの中で、 自分の思いをのびのびと表現する
- ☑ 基本的な生活習慣を身につける

(4歳児の目標)

♪ 身近な環境に親しむ中で友達と関わり、 主体的に行動する

(5歳児の目標)

○ 自然と関わる様々な経験を通して、自分の力 を伸ばしながら友達と遊ぶ楽しさを味わう

2004年度「科学する心を育てる」ための保育構造図(5歳児)

一科学する心を育てるための保育内容のねらいを中心に一

本園では、カリキュラムを保育内容の5領域およびキリス ト教保育の視点から構成しているため、「科学する心を育て る」ための実践研究も、この視点で取り組むことにした。

子ども達に「科学する心を育てる」ために、右記のよう な保育内容を構成しようと考えている。「科学する心」を キリスト教保育の中心課題である「共に生きる」ことにお き、「自然との共存」と「他者との共生」ができる子どもを、 本園のめざす子ども像として考えている。

〈間引き〉一事例より一(抜粋) 自然の厳しさを実感しながら

間引きすることに対して、かわいそ うだと言った子どもの中で、病気で 幼稚園を休みがちなB男が悲しそう に言ったことがとても気になった。 全部同じだいこんの葉なのに、弱い ものだけを選んで抜くことが、自分 が抜かれているようで悲しい気持ち になったのではないだろうか。子ど もたちは自分達が育てた葉っぱに、 それだけ愛着を感じていたことがよ くわかった出来事であった。

だいこんの間引きをする幼児たち ぎゅうぎゅうすぎたら大きくならんもんね



かわいそう どうしても抜くの?

言葉 騒から、総合的な自然のしくみや 健康 生態系の連鎖に気づき、理解する。 ※季節ごとに栽培活動をすることで 自分が不思議に感じたこと、疑問 探したり、作ったりする身体活動 、環境の時間的変化に気づくことを に思った気持ちを、言葉で表現する。 を通して手先の器用さを獲得したり 通して、自然界の不思議を発見しよ ※言葉による表現は科学する心を論 、基本的な運動能力を身につける。 うとする心を育てたい。 理的に考えるための大切な道旦で ※2才~10才の間は心臓の筋肉がで あると思う。子どもの言葉は自然を きたり、免疫力がつく時期で、この時 そのまま表現している。そのような子 期の体力づくりが科学する心の土台 となっている。つまり体を動かして遊 どもの表現を豊かにするための文化 財をたくさん与えたい。 びに取り組むことが科学する心の十 台となると考えたためである。 科学する心の育ち 表 現 人間関係 白然との共存 他者との共生 自分が見つけたり、触ったり して五感で確かめたもののイ メージを、歌や身体表現、わら わる中で、友達の意見を聞き、お べうた遊びや製作活動を通し 互いに意見を出し合って活動を 、表すことを楽しむ。 一 進めることができる。 キリスト教保育 ※自然の不思議さに感動し、そ ※人間関係こそが科学する心を育 れを表すこと、また、友達と一緒 てる土台である。相手の考えを置 不思議だな、どうしてだろうという思い き話し合い、同じ目的をもって活動 から、創造主である神様の存在を知る。 心の芽生えとなるととらえてい に取り組むことは、相手の心情をよ 油様がいつも守っていてくださること るからである。 り深く洞察することができるように に感謝し、そのことに応えようとする気持 なると考えたためである。 ※幼児にとって自然は神様の存在を知る 窓口である。自然の不思議さは説明でき

ないことが多くある。これを生命の源であ る神様の業と考えたい。

ポイント

宗教的情操教育として取り組まれていた保育内容を、「科学する心」という視点で新たに捉えなおし、保育目標の中に多 くの「科学する心」があることを見出しています。また各領域のなかでは、「科学する心を育てる」子どもの姿を明確にイ メージしています。子どもの思考・行動だけでなく、子ども同士の人間関係にも目が注がれています。